

経営方針説明会

株式会社 YE DIGITAL



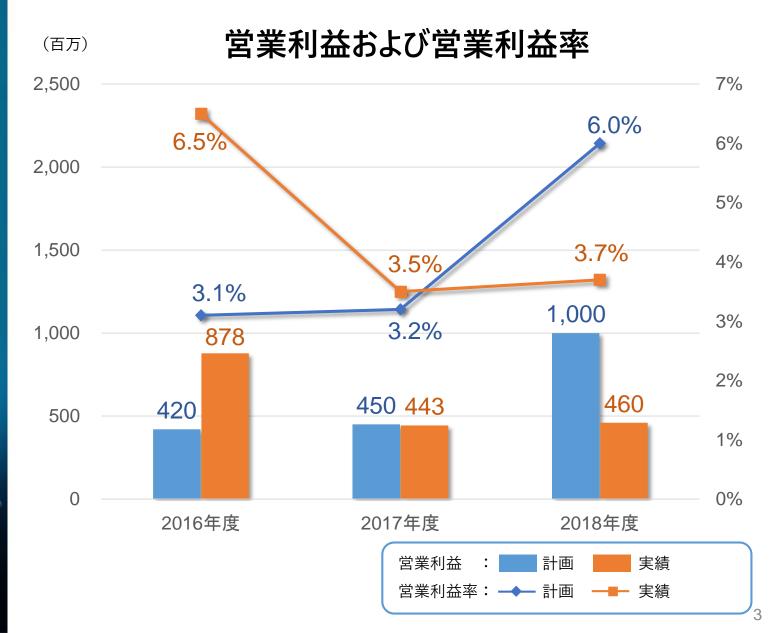


当社の経営状況と新中期経営計画について





16-18中期経営計画の実績







2018年度の振り返り

定性的

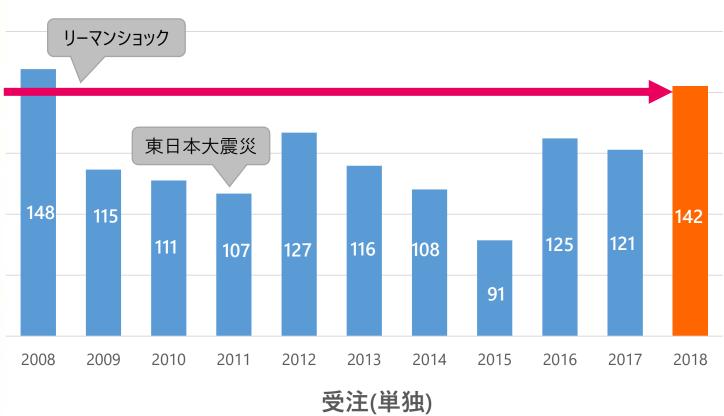
		2018年度強化策(2018年6月~)	効果
	営業	「アカウント営業」と「ソリューション営業」に分割 ・アカウントはパートナーとしての定着を図る。 ・ソリューションは各市場における拡販を目指す。	営業の活性化により受注拡大。 ・loT/Alのソリューション化が進み、案件が増加。 ・YECとの協業提案が可能となり、訴求力向上。 ・アカウント対応強化により大型案件獲得。
	製品開発	製品毎にプロダクトオーナーを配置 ・市場調査、企画、開発投資、販売戦略を 集中させることで市場投入をスピードアップ。	戦略的なマーケティングにより市場拡大。・プロダクトオーナー主導による戦略の明確化。・loT技術のスマートシティ分野への応用すすむ。
		技術と開発部を統合 ・基礎技術と現場へのアプリケーションを融合し ソリューション展開を促進。	先進的ソリューションにより市場投入が加速。 ・Alと画像処理技術を組み合わせたソリューションが好評。複数の大手食品メーカから受注を獲得。・LOCIXカメラソリューションを用いた物流向けシステムの展開が順調。
	ストック 拡大	新サービス拠点「Smart Servive AQUA」開設 ・2018年10月1日に新たにオープン! ・アフターコンサルメニューの新設	サービス利用者増加へ。 ・システム運用を支えるパートナーとしての認識が徐々に広がり、この春にも利用者増加の見通し。



その結果

2018年度受注高が **10年ぶり** に140億円超え!







2019年度に向けた状況

2018年6月からスタートした"強化策"が功を奏し、受注拡大。 2019年度に向けて、注目案件が複数、着実に進行 受注 しており、期待大。 2017年度受注残が少なかったこと。強化策を打ち出してから8ヶ月しかなかったと いうことで、2018年度は売上拡大に至らなかった。だが、 売上 2018年度の受注拡大を受け、2019年度からは売上 も着実に改善する見通し。 売上改善に至らない中でも、次に向けて設備や開発の投資を積極的に実施。 今後の受注売上の拡大・業務効率化の基盤づくりが進んだ。 利益 2019年度以降はその成果として、安定した利益を確 保できる見通し。

成長・拡大に向けて、視界良好!



新中期経営計画 基本計画

2019-2021 中期経営計画 「デジタル社会のリーディングカンパニー 」

基本方針

デジタル・トランスフォーメーションが加速していく中、当社は、新生「YE DIGITAL」として、 お客様や社会のデジタルソリューションを実現するブランド企業の地位を確固たるものと するため、成長・収益・経営の3つの基盤強化を図り、躍進します。

方針1. 基幹事業における収益力の拡大強化

方針2. 中核事業における成長路線の追求

方針3. サービス事業における安定的・高収益ビジネスの確立

方針4. 事業活動を支える経営基盤の充実







基幹事業における収益力の拡大強化

従来の基幹事業において、経験やノウハウの展開による新規顧客の獲得や事業ドメイン の拡大と、事業のモデルチェンジの加速により、収益力の強化を図る。

ソリューション拡大 による

事業モデル チェンジ プライムベンダーとしての 実績積み上げによる

ソリューションプロバイダの 地位確立 大規模システム構築の 技術とノウハウの展開で

事業ドメイン 拡大

中核事業における成長路線の追求

IoT、AI、セキュリティなど、これからの中核事業において、優れた技術・製品力と マーケティング戦略、営業力の強化により、成長路線を追求する。

マーケティング強化 による

キャズム超え

技術・製品力強化による

ヒット商品づくり

提案範囲拡大による

受注の拡大



基本方針

サービス事業における 安定的・高収益ビジネスの確立

新たな設備(Smart Service AQUA)と当社の強みを活かしたサービスの 提供により、安定的かつ高収益ビジネスの確立を図る。

サービスビジネスの 訴求と浸透による

ストック率 拡大

Smart Service AQUA 利活用強化による

受注拡大 効率化 ワンストップでの サービス提供促進による

インシェア拡大ストック化促進



基本方針 **4**

事業活動を支える経営基盤の充実

コーポレート部門の効率化と戦略機能を強化し、組織・人材、IT環境、 品質保証体制等の安定・充実した経営基盤を構築する。

ITの活用による

組織力・人材力の強化

人材活用による 受注機会の創出に向けた

> 戦略的 IT投資

効率良い事業拡大 に向けた

品質保証体制の 強化



2021年 当社の目指すべき姿

- ・エンジニアリング系AIでトップクラス
- ・当社のIoT/AI/セキュリティ製品の増え続ける需要
- ・様々なシーンで当社のIoT/AI/セキュリティ製品を発見

デジタル社会の リーディング カンパニー

- ・労働集約的なSIを脱し、主流はソリューションやサービス
- ・蓄積した経験・ノウハウの強みを活用した新ビジネスの拡大
- ・当社のソリューションやサービスに対する高いお客様満足度
- ・多くの戦略的、高付加価値人材が大活躍する会社
- ・社員が活き活きと働いている就業環境、職場環境
- ・平均年収ランキング上位企業
- ・デジタル社会をリードする会社(未来を変える会社)
- ・北九州だけでなく全国で認知度の高い会社(自慢の会社)
- ・成長のスパイラルが続く企業(優良成長企業)



中計目標数值(売上高·営業利益)



売上高 150億円 営業利益 12億円









大きな成長に向けて

魅力あるソリューションと 魅力ある社員のいる会社に!

遠藤直人





参考資料

19-21中期経営計画達成に向けた 4つの重点取り組み





キャズムを超える



- MMシリーズの更なる拡充と組み合わせ商品の早期投入。
- マーケティングについて、新たに外部をコンサル投入し、 重点商品の拡販を強化する。

Challenge!

- ・ ソフトと設備を組み合わせた、提案範囲の拡大!
 - →MMEye X 自動ピッキング、自動倉庫 X スマートファクトリー、etc.



組込・制御システム本部に「事業戦略室」を設置。 「スマートファクトリー」「設備SI」を中核事業へ。



ERP導入スキルを磨く



人に依存しない拡大を目指す。

- ERP市場に特化した技術力の向上とマーケティングの強化。
- 戦略パートナーチームをベンダーと構築。
- 実績と競争力を備えたERPシステム外販強化。

Challenge!

• 大手企業の最新ERPシステムへの移行を受注!



導入ノウハウをテンプレート化。 2025年までのシステム置き換え需要を掴む!





ストック率の拡大



継続成長と利益増額のために。

システム導入前の**事前評価**から、**定着化に向けた支援**、 導入効果を導き出す**運用支援**と、導入システム周辺にある さまざまなニーズに**トータル**に、**ワンストップ**でお応えします。







戦略的なIT投資

経営 基盤

・オーダ管理システム、etc.

継続成長と利益増額のために。

·営業支援·CRMツール

- ・多様なワークスタイルを支えるIT環境を構築し、働きやすさ強化。
- ・進捗の可視化が実現するマーケティング・営業活動のスピードアップ。

戦略的ITツール

・名刺管理サービス



・ERPパッケージ





マーケティング戦略

マーケティング本部 竹原 正治







待っている人たちがいる...





基本方針

中核事業における成長路線の追求

マーケティング強化によるキャズム超え

イノベーティブな製品・サービスを市場展開するためのGAPを超える





世の中のデジタルトランスフォーメーションを支えるソリューションを提供





基本方針

中核事業における成長路線の追求

マーケティング強化によるキャズム超え



外部コンサルタント活用



<u>製品戦略</u>

提供する形を変える

- ・目的視点
- ・サブスクリプション



販売戦略

売り方を変える

- ・マーケットプレイス
- ・リードナーチャリング
- ・グローバル





注力ビジネスの進捗と今後の展開



①スマートバス停

目的:お客さまの<u>利便性向上</u>や社員の<u>働き方改善</u>

機能:バス停の電子化、時刻表の拡大表示、多言語対応

運行状況や緊急時のお知らせを一斉配信

構成技術・製品:IoTコンサルティング、MMLink、MMCloud



②LOCIXカメラソリューション

目的:画像による屋内外の<u>遠隔監視を手軽</u>に実現

機能:配線不要、乾電池駆動、防塵防水仕様

構成技術·製品: MMLink、MMCloud、AI画像分析

LOCIXカメラ



<u>③AIソリューション</u>

目的:先を見据えるお客様の<u>デジタル革命による競争力の支援</u>

機能:弊社技術とノウハウを体系化したAI「Paradigm」を搭載

構成技術・製品:MMLink、MMCloud、AIサービス



1 スマートバス停





北九州市、金沢市、岩手県で本格導入に向けた実証実験を実施中。 日本各地のバス事業者の働き方改革を実現し、豊かな社会づくりに貢献。

全国55万基のバス停のスマート化を目指す!







自販機一体モデル



①スマートバス停

【ビジネスモデルと戦略】

日本各地のバス会社および自治体と連携し、より大きな顧客エンゲージメント を創造。



(例)病院、コンビニ、スキー場、海水浴場、etc・・・



②LOCIXカメラソリューション



シリコンバレー発の省電力無線カメラを活用した2つのサービスをリリース。

ワイヤレスカメラ画像遠隔監視サービス

MMsmart Monitor



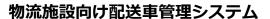


スーパーゼネコン施工管理、土砂災害監 視、物流倉庫監視用途で

10社で採用

既存深耕、農業IoT、コインパーキング市 場へのターゲットを広げ

3 力年で 5 0 社への販売を目指す



スマートバースシステム™



マルチテナント型物流施設

2棟 (カメラ100台)にシステム導入

大手物流不動産プロロジスとの 協業体制で、新設物流施設への水平展開 を実施予定。

3 力年で 2 0 棟への採用を目指す







②LOCIXカメラソリューション

【ビジネスモデルと戦略】

新たな販売手法を導入し、最先端技術にIoT/AI技術を組合わせパッケージ化&サービス化。



サブスクリプション・マーケットプレイス











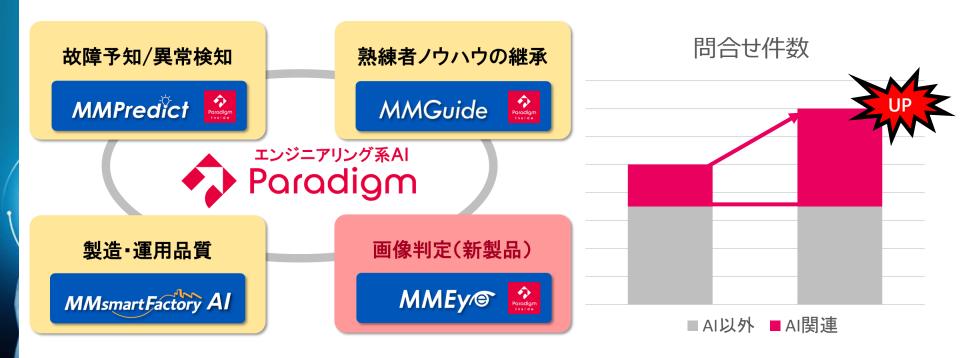


③AIソリューション Paradigm



産業設備、装置等のエンジニアリング系データを 対象としたAI「Paradigm」の開発を手がけ、 主に下記4つのソリューションに注力。

MMEye発表(2018年10月)以降、 AI関連の問合せが急増!



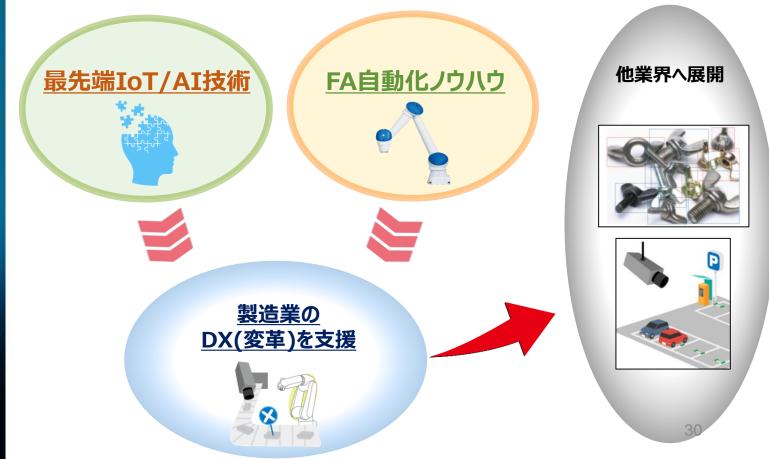


③AIソリューション Paradigm



【ビジネスモデルと戦略】

最先端の「AI技術」と当社が得意とする「工場自動化ソリューション」を融合さ せ、製造業の生産性向上に貢献。







キャズムを超え飛躍的な成長を

YE DIGITALは、 世の中のDXを支えるため、 IoT/AI/FAを道具として、 目的視点のデジタルソリューションを 提供するプロバイダーへ



技術・製品戦略

デジタルプロダクト本部 **宮河 秀和**





基本方針

中核事業における成長路線の追求

技術・製品力強化によるヒット商品づくり



2019年度 AI 搭載予定

IoTプラットフォーム (見える化)

MMCloud

文教向け情報でキュリティ

NetSHAKER

当社AIソリューション





<u>画像判定AI</u> (MMEye)

機能 強化

2018年度製品リリース

MMEy/

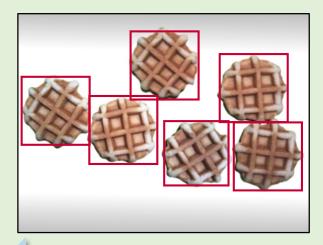
はAIを活用した画像判定サービスです。

従来の技術では判定が困難で、人の目視に頼らざるをえなかった 外観検査をAIで自動化しました。

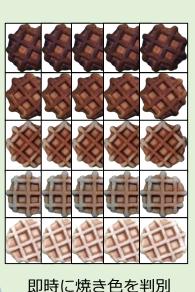
食品製造ラインへの適用例

対象物の焼き色をディープラーニングで分類、学習します。それにより色の極端に濃いモノ、薄いモノはNG品(不良品)として取り除き、また、良品でも色の濃さを判定し、 火加減を調整できます。

カメラ画像



強火**NG** 分類 良品 弱火**NG**





KIPFO (C/96)C

従来は検査員による目視検査

画像判定AIのさらなる進化 (1)

類似画像を自動生成することで、横展開を加速

2019年度 開発予定 AIによる画像検査では、学習のために大量の画像(100枚程度)が必要です。 GAN(敵対的生成ネットワーク)を応用した画像のドメイン変換技術により、 既存の画像を別商品の特性に変換し、高精細な類似画像を自動生成します。

A商品(収集済み画像)



良品



不良品:欠け(小)



不良品:欠け(中)



不良品:欠け(大)



不良品:割れ

類似画像を自動生成





良品



不良品:欠け(小)



不良品:欠け(大)



不良品:欠け(中)



不良品:割れ

画像判定AIのさらなる進化 (2)

機能 強化

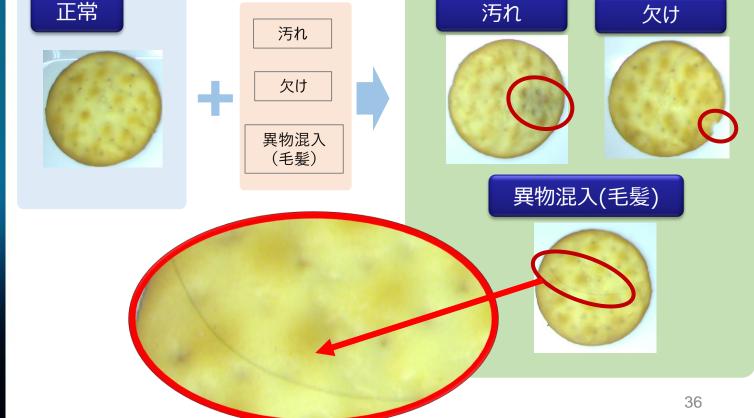
2019年度 開発予定

異常画像を自動生成することで、画像収集の手間を大幅に削減

異常が発生しにくい製品では、異常画像を大量に揃えることができません。 そこでGANを使って、正常画像を元に条件付き画像生成(Conditional GAN) することで、異常画像を自動生成します。

異常

異常画像を自動生成





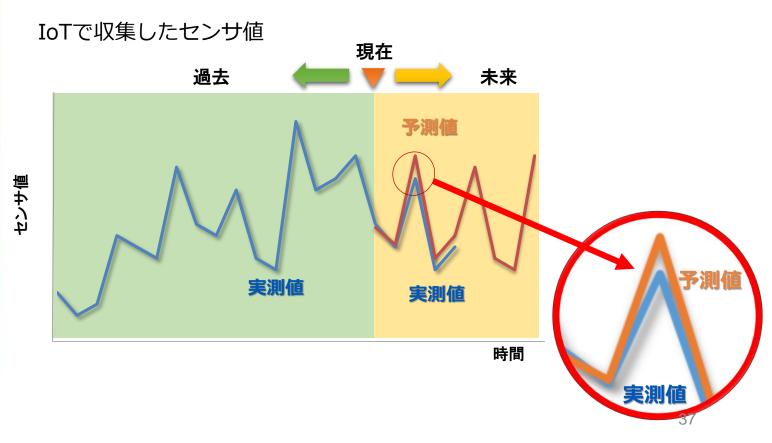
<u>見える化(MMCloud)のAI</u>

2019年度 開発予定

しきい値設定不要、目視では気づかない変化をお知らせ

大量データが収集されるIoTシステムでは、センサごとに「異常を通知するしきい値」を 設定するのは大変手間がかかります。

そこで、AIが各センサの過去データから時系列特徴を学習し、そのセンサの予測値を算出、これと現在の値との差を元に、異変がおきていないかを自動で判断します。







文教向け情報セキュリティのAI

新規 搭載

38

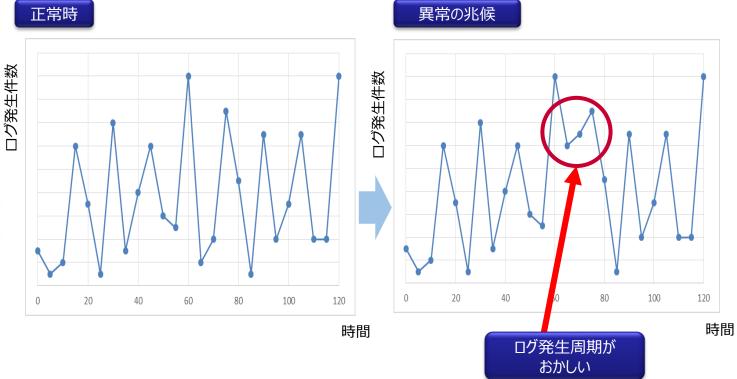
2019年度 開発予定

セキュリティ問題の兆候をAIが早期に察知

セキュリティ分野では情報漏えいなどの問題が発生する前に、その兆候を捉えることが重要です。

インターネット通信やシステムの稼働ログに、エンジニアリング系AIで培ってきた 異常検知技術を適用し、正常な通信ログを学習、それと異なる挙動を検知すること で、より精度の高い「気づき」を提供します。







すべての製品にAIを

常に最新のAI技術を開発し、 エンジニアリング系AIのトップクラスを 走り続けます。

